

個人投資家の皆さまへ 会社説明資料

2022年11月2日現在

目次

1. 会社概要	P. 3
2. 事業内容	P. 6
3. 長期VISION・中期戦略	P. 13
4. 現在の業績と中期目標	P. 18
5. 株主還元	P. 24
6. 参考資料	P. 26

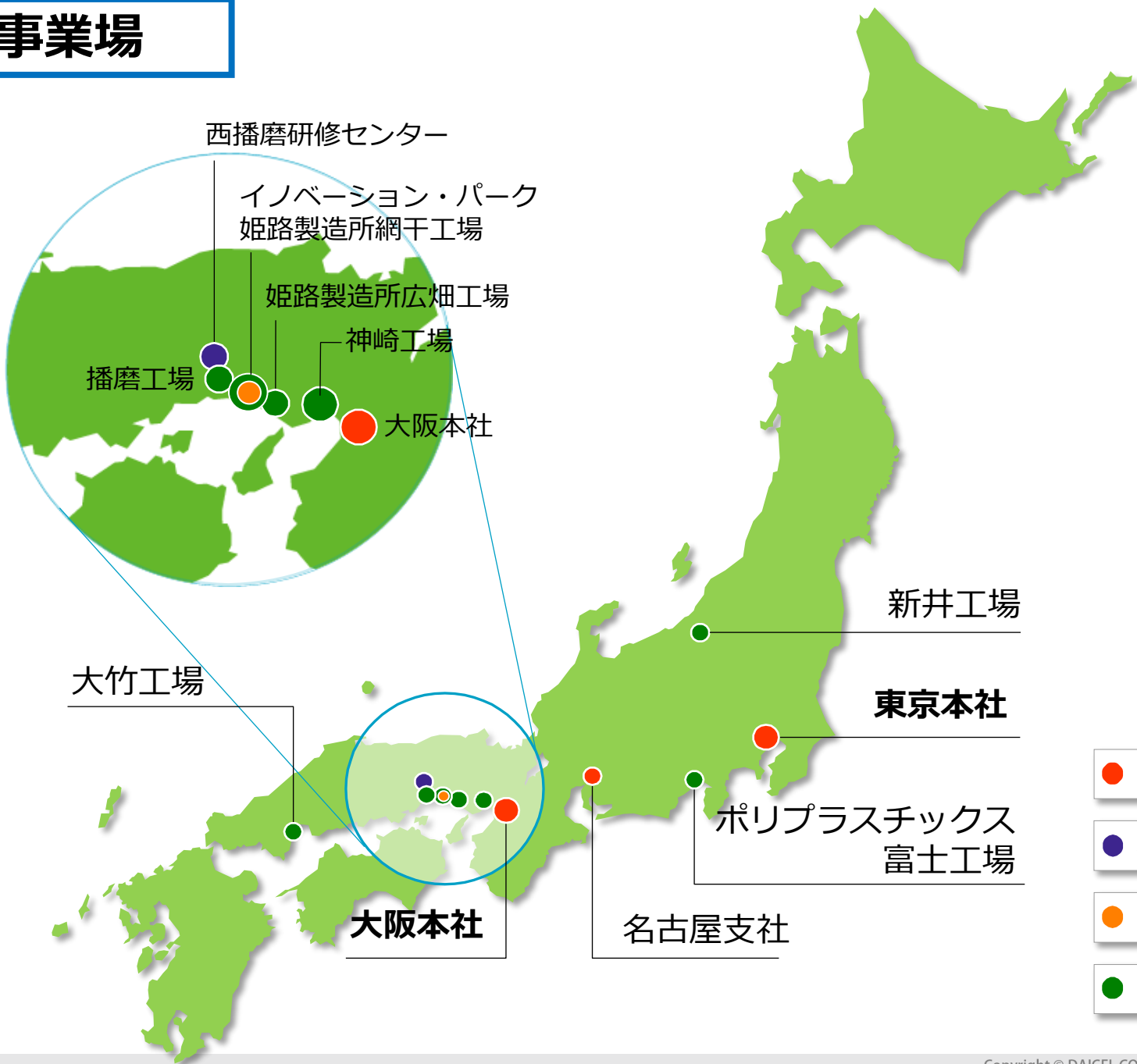
1. 会社概要

商号	株式会社ダイセル
英文商号	DAICEL CORPORATION
設立	1919年9月8日
資本金	362億円
従業員数	2,553名（ダイセルグループ 11,104名）※2022年3月31日現在
本社所在地	大阪本社 大阪市北区大深町3-1（グランフロント大阪 タワーB） 東京本社 東京都港区港南2-18-1（JR品川イーストビル）
上場市場	東証 プライム市場
証券コード	4202（化学）
売買単位	100株



「JPX日経インデックス400」の構成銘柄に選定されています。

国内事業場



- オフィス
- 研修センター
- 研究所
- 工場

ダイセルグループ

2022年3月31日現在

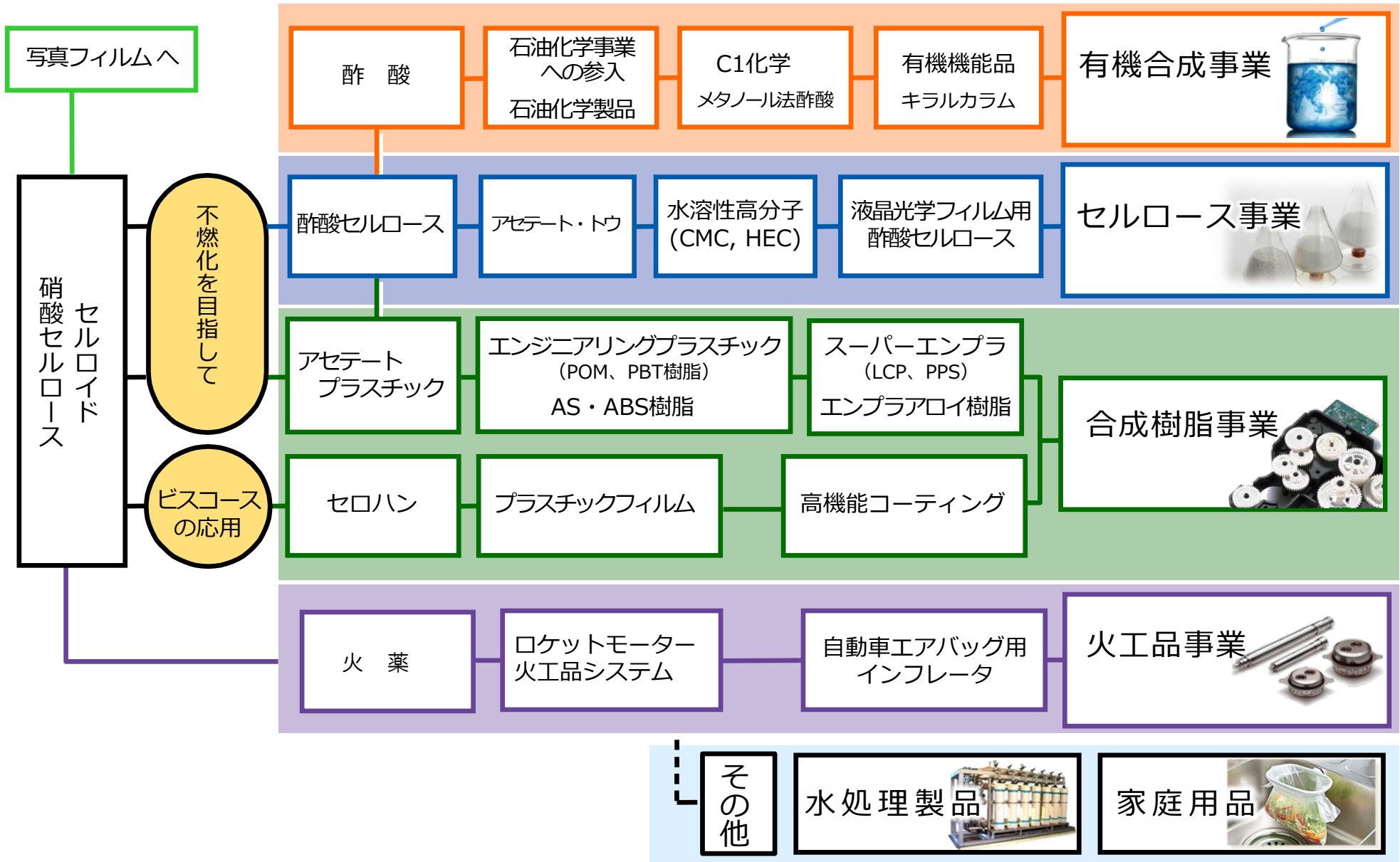
アジアをはじめアメリカ、ヨーロッパに **76**社

グループ従業員数

11,104人

2. 事業内容

事業領域の発展プロセス



セグメントの変更 (2020年4月1日)

これまでの技術・製品ベースの事業体制から、注力市場に共通する価値を提供する**価値提供型**と、長年培った技術や素材の連鎖で付加価値を提供する**素材提供型**の事業体制に移行しました。

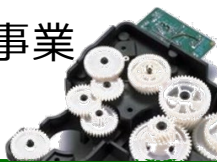
有機合成事業



セルロース事業



合成樹脂事業



火工品事業



価値提供型

素材提供型

メディカル・ヘルスケア



スマート



セイフティ



マテリアル



エンジニアリング
プラスチック



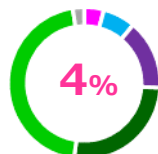
セグメントと主要製品

22年3月期売上合計

4,679億円 主な製品

国内シェア
No.1世界シェア
No.1

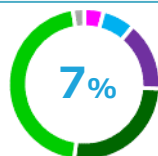
メディカル・
ヘルスケア



化粧品原料（1,3-BG、ポリグリセリン類） 健康食品（エクオール、セラミド）
キラルカラム 高純度キラル試薬
製剤ソリューション（プレミックス添加剤）

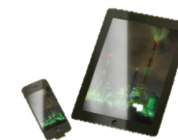


スマート

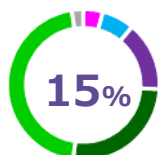


液晶保護フィルム用酢酸セルロース

半導体レジスト 電子材料向け溶剤
高機能光学フィルム 光学デバイス 有機半導体デバイス



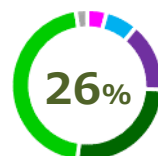
セイフティ



自動車安全部品（**自動車エアバッグ用インフレーター**、
マイクロガスジェネレータ、イニシエータ） 民生用火工品



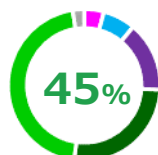
マテリアル



酢酸 酢酸誘導体（無水酢酸、汎用溶剤）
酢酸セルロース（液晶フィルム用途以外） **アセテート・トウ**
エポキシ化合物 カプロラクトン誘導体



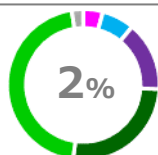
エンジニアリング
プラスチック



エンジニアリングプラスチック（**POM**、PBT、PPS、**LCP**、COC）
樹脂コンパウンド製品
樹脂成型加工品（シート、食品包装用フィルム） 水溶性高分子



その他の事業



水処理製品（逆浸透膜／限外濾過膜モジュール、
各種水処理システム、散気装置）
防衛関連製品



製品の主な用途 ①

自動車にも

安全性、耐久性や燃費の向上、そして自動車の電動化・電装化に貢献しています。



自動車用塗料

■ カプロラクトン、
エポキシ化合物



エアバッグシステム

■ インフレーター



リチウムイオン電池

■ カルボキシメチル
セルロース (CMC)



給電コネクタ

■ ポリブチレン・
テレフタレート
(PBT)



電動ウォーターポンプ

■ ポリフェニレン・
サルファイド (PPS)



車載センサー

■ ポリブチレン・
テレフタレート
(PBT)

製品の主な用途 ②

液晶テレビにも



液晶ディスプレイ

- 偏光板保護フィルム用酢酸セルロース (TAC)
- LCDレジスト用ポリマー

スマートフォンなどの電子デバイスにも

進化し続ける電子デバイスの高機能化、小型化に貢献しています。



狭ピッチ・コネクタ

- 液晶ポリマー (LCP)



ディスプレイ向けフィルム

- 低ギラツキAG (アンチグレア=防眩性) フィルム



光学部材/レンズ

- ウェハーレベルレンズ



半導体製造

- 高純度溶剤、半導体用レジストポリマー

製品の主な用途 ③

サプリメントや化粧品類にも

皆様の明日の笑顔のために、安全性の高い高品質なコスメ・ヘルスケア素材を提供しています。



ヘルスケア商品

- 天然物由来の健康食品素材、サプリメント

化粧品、シャンプー、リンス、歯磨き粉

- 1,3-ブチレングリコール
- CMC、ヒドロキシエチルセルロース (HEC)

医薬品にも

医薬品の開発・製造に関するソリューションだけでなく、薬の飲みやすさの向上にも貢献しています。



医薬品開発・製造

- キラルカラム



OD錠 (Orally Disintegrating tablet: 口腔内崩壊錠)

- プレミックス添加剤

製品の主な用途 ④

OA機器にも



- プリンタ駆動部ギヤ
- 外装カバー
- ポリアセタール (POM)
- エンプラアロイ樹脂

病院にも

医療用のクリーンな水づくりに貢献しています。



- 人工透析用純水製造装置
- 透析用水作製装置



食品包装材にも

賞味期限延長を実現するバリア機能で、食品ロス削減に貢献しています。



- お菓子などの袋
- 包装用バリアフィルム

生活のなかにも

生活に、安全や便利さ、使いやすさをプラスする様々な製品を提供しています。



- 住宅資材
- 難燃ABS樹脂



- 家庭用品
- 三角コーナーいらす



- 混合水栓
- ポリフェニレン・サルファイド (PPS)



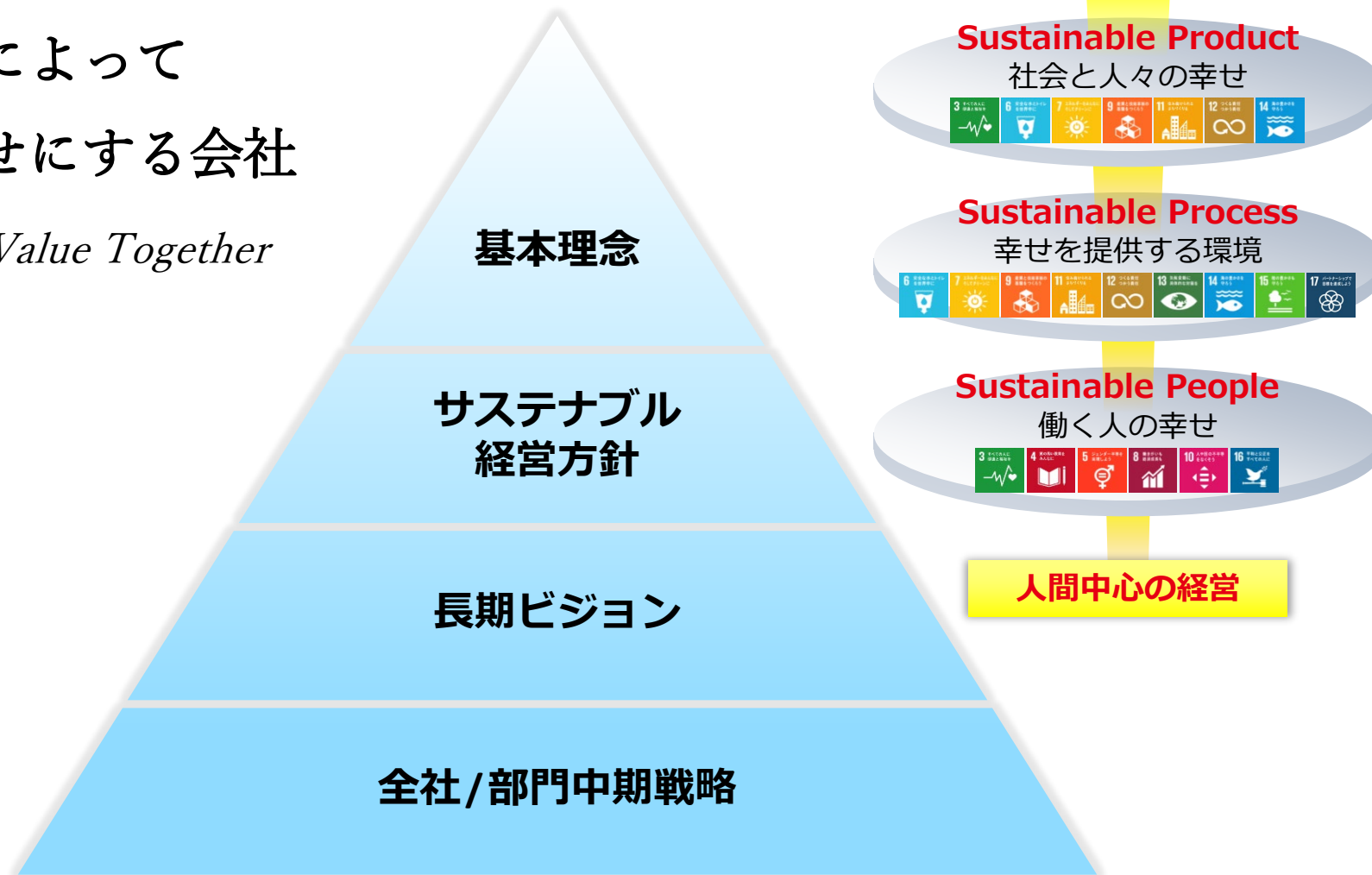
- めがねフレーム
- セルロイド、アセテート樹脂

3. 長期VISION・中期戦略

基本理念と経営戦略

価値共創によって
人々を幸せにする会社

Sustainable Value Together



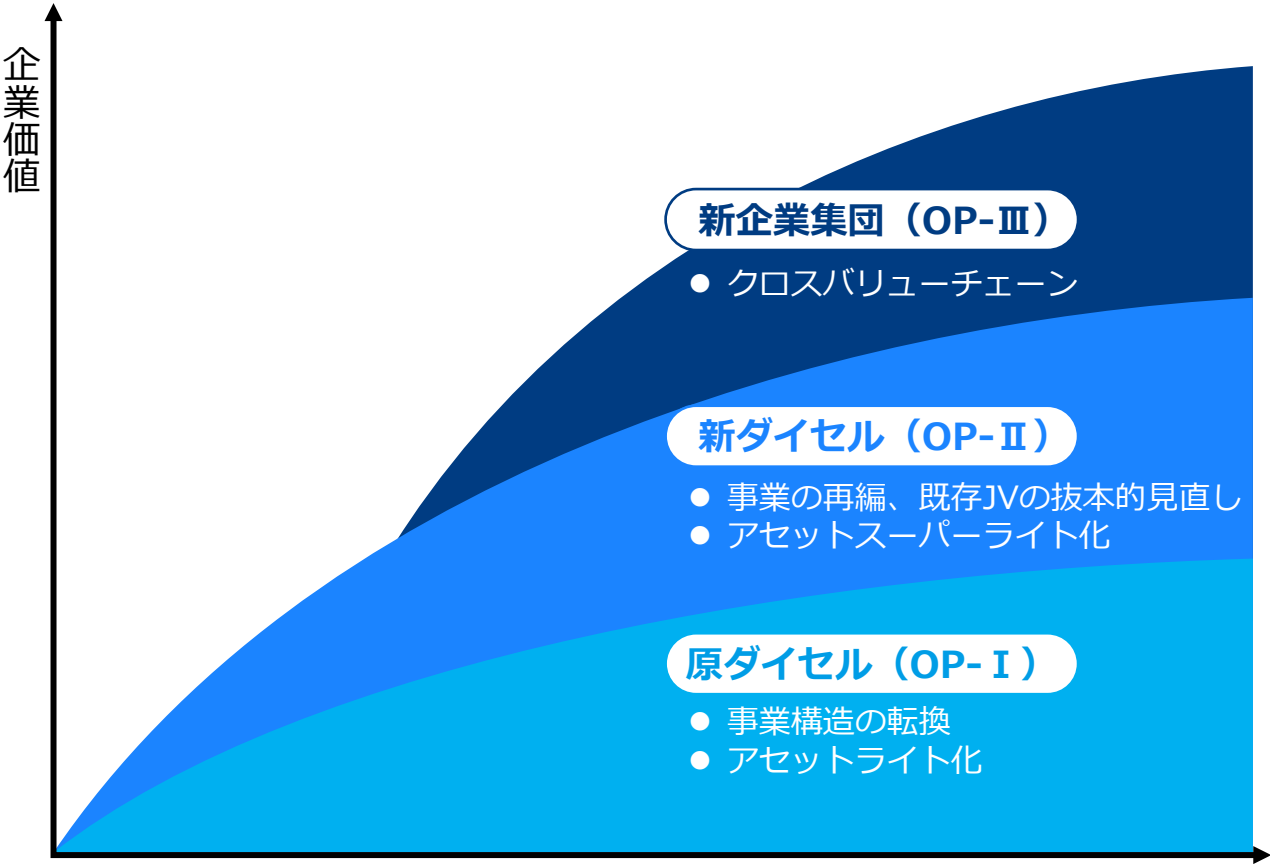
長期ビジョン DAICEL VISION 4.0 実現へのステップ

GOAL

社会ニーズを的確に捉えた事業創造を行う会社になる → 他社と共創できるグループ体になる → 共創スキームが確立する → 循環型社会構築に貢献する

自社の収益力と事業創造力を高める	マーケットイン組織へ転換する準備を終える	グループの収益力と事業創造力を高める	マーケットイン型のグループ体に変貌する	グループ内バーチャルカンパニーが稼働する	クロスバリューチェーンが稼働する	新事業創造の取り組みがはじまる	産業価値観を転換する	バイオマスバリューチェーンの提唱	カーボンニュートラルへの貢献
------------------	----------------------	--------------------	---------------------	----------------------	------------------	-----------------	------------	------------------	----------------

全社戦略	共創テーマ
	事業・組織形態
事業戦略	経営効率
	組織価値観
	技術連携
	商品設計
	バリューチェーン
機能別戦略	事業創出
	新技術開発
	情報基盤/ 生産革新/ エネルギー
	ワークスタイル



新企業集団の形成
バイオマスプロダクトツリーの実現
カーボンオフセット・エネルギーオフセットの実現
4つのトリガーによる幸せの提供 「1健康 2安全安心 3便利快適 4環境」

2020年度



バイオマスバリューチェーン

一次産業と二次産業の共創循環を通じて、永続的な産業生態系を提唱

森林を復活させ、山の保水力を高め、土砂崩れを抑制



バイオマスバリューチェーンの実現に向けて

当社は創業時からセルロースを扱ってきた植物由来化学製品のパイオニアで、現在、メタノールを出発原料とする製品は化学品売上の5割を占めます。原料のバイオメタノール化により、バイオマス製品群への転換が可能な化学会社として、バイオマスバリューチェーンの実現を目指します。

新素材の創出

バイオマス素材としての酢酸セルロースや、精密な化学修飾技術を用いた新素材の創出により、サステナブルな製品の創出・拡販を狙います。

1. 従来品・酢酸セルロースの生分解性向上

主力製品である酢酸セルロースは、植物由来のバイオプラスチックという環境特性と従来の汎用プラスチック並みの高い加工性を兼ね備えています。さらに生分解性の向上、食品対応グレードの開発などを進めており、今後はカトラリーなどのワンウェイ用途を皮切りに新規市場を開拓し、グローバルに寄せられる顧客からの強い生分解性プラスチックへの要求に応え、拡販に繋げていきます。



カトラリーや食品容器などの成形イメージ

2. 新たなファインセルロース、誘導体のラインナップ強化

セルロースの精密な化学修飾により、今までにないファインセルロースを創出しています。製品のバリエーションを増やし、顧客の多様なニーズに対応していきます。

例：貴金属やヒ素などを選択的に吸着できる金属吸着剤など



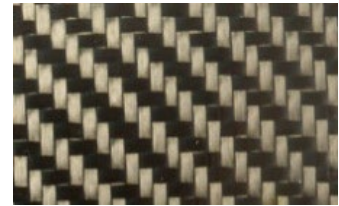
金属吸着剤で取り出したパラジウム

「溶かす技術」による技術革新の加速

バイオマスバリューチェーン構築の核となる新バイオマスプロダクトツリーに必要な「溶かす技術」を用い、様々な技術革新を加速させます。

1. 穏和な条件下で木質を「溶かす技術」による、新たな素材・製品群の創出

- ・ 従来不可能だった精密に制御された化学反応による様々な新素材を開発
- ・ 本来、木材に含まれている反応性に富んだ物質（リグニン、ヘミセルロースなど）を変質させずに抽出し、それらを出発原料とした新たな製品群を創出



木質とカーボンの
ハイブリッド材料(イメージ)

2. 穏和な条件下で木質を「溶かす技術」による従来の製造プロセスの省エネルギー化

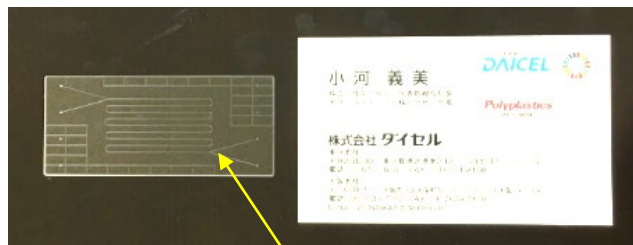
- ・ 従来の木材溶解に必要なだったエネルギー多消費型の製造プロセスを大幅に短縮可能
- ・ 省エネルギーによる環境負荷低減とコスト削減、生産性向上など製造業の競争力を強化

3. 「溶かす技術」を他の化学プロセスに応用し、マイクロ流体デバイスプラントを実現

- ・ 数百 μm の流路内でも物質を詰まらせない「溶かす技術」と、化学プラントの単位操作をモジュール化した「ダイセル式生産革新」を組み合わせることで、従来困難とされていたマイクロデバイスでの精密な反応コントロールが可能に
- ・ 開発時間の短縮、設備投資額の圧縮、省エネルギー、省スペース、省資源化を実現



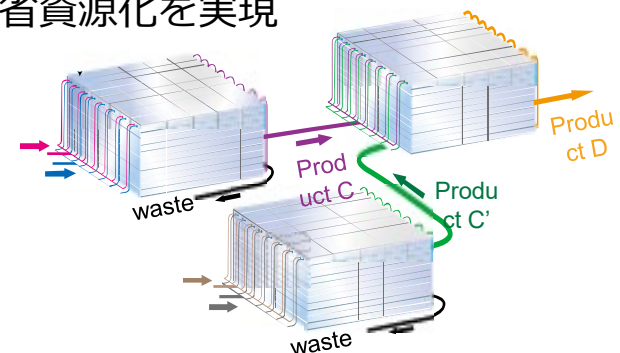
従来の化学プラント



マイクロ流体デバイス



並列化



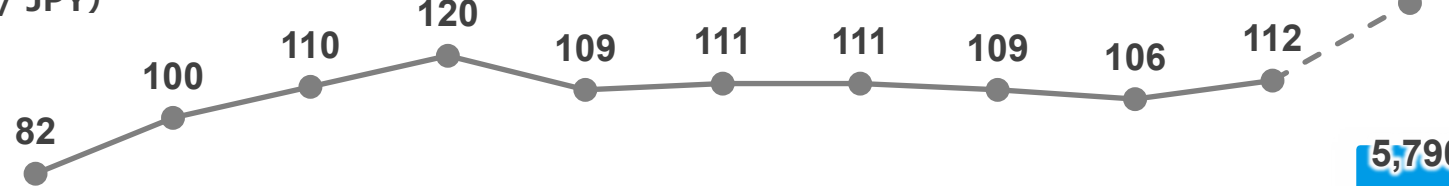
4. 現在の業績と中期目標

売上高・営業利益の推移

● メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)

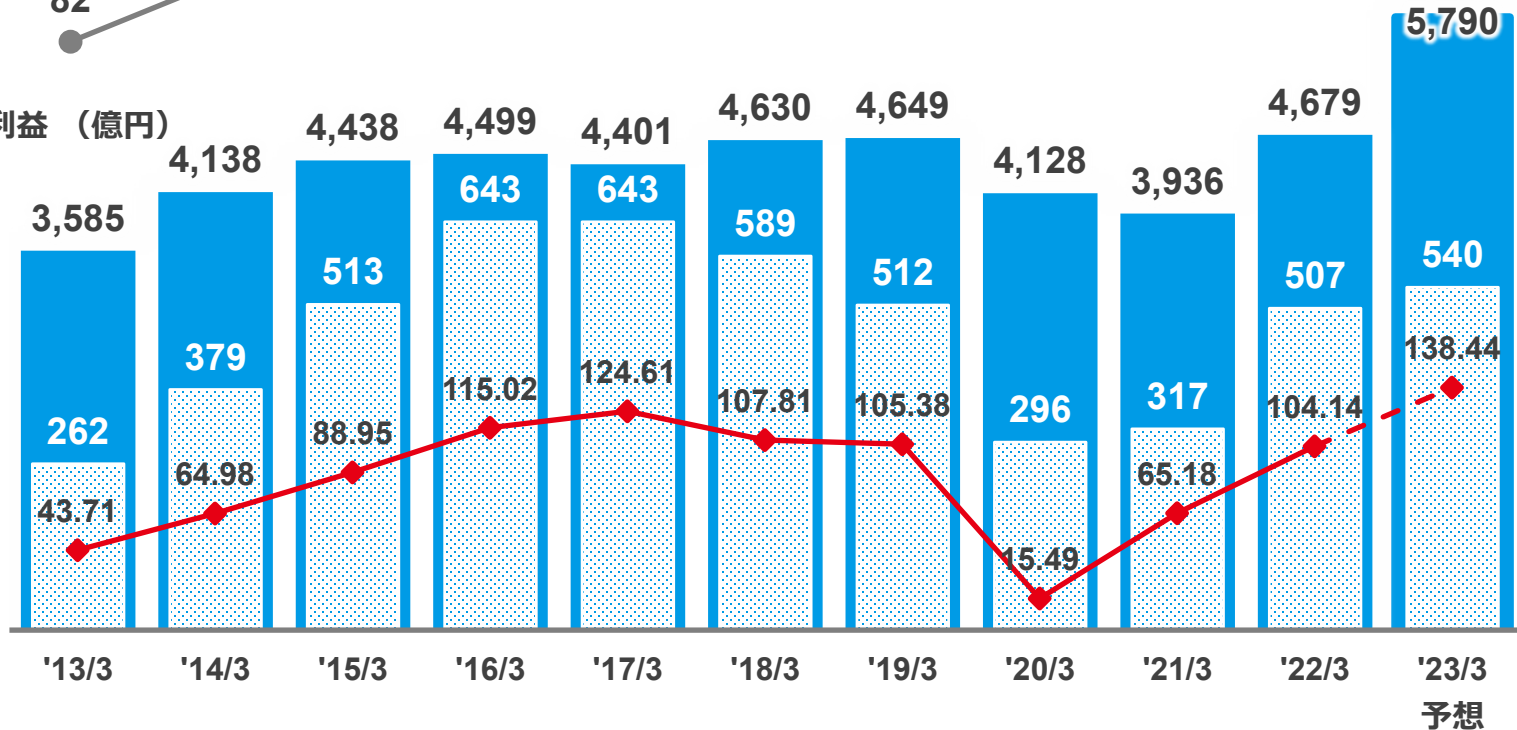


● 為替レート (USD / JPY)



■ 売上高・□ 営業利益 (億円)

◆ EPS (円)

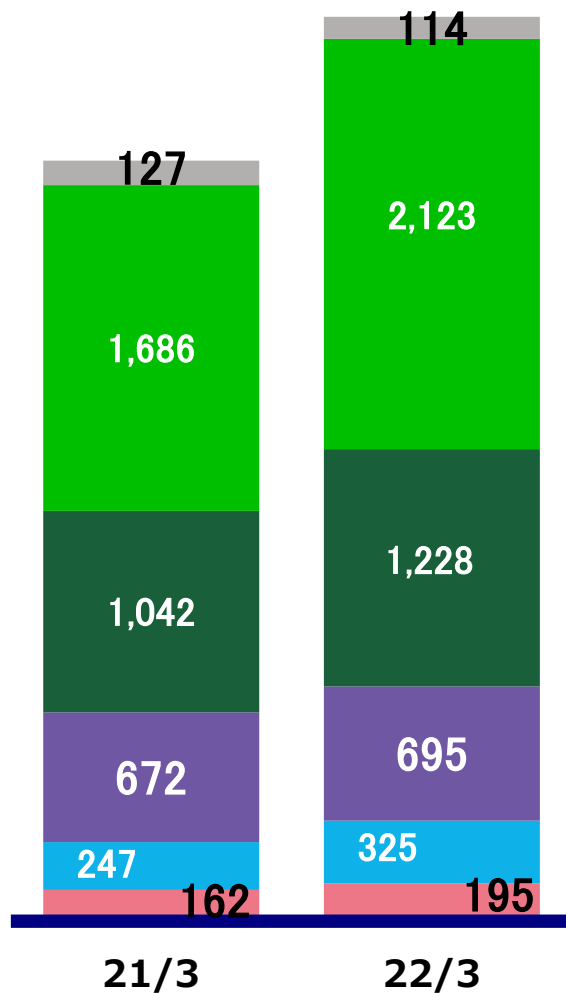


セグメント別の売上高・営業利益（22年3月期実績 前年比較）

売上高

合計
3,936

合計
4,679

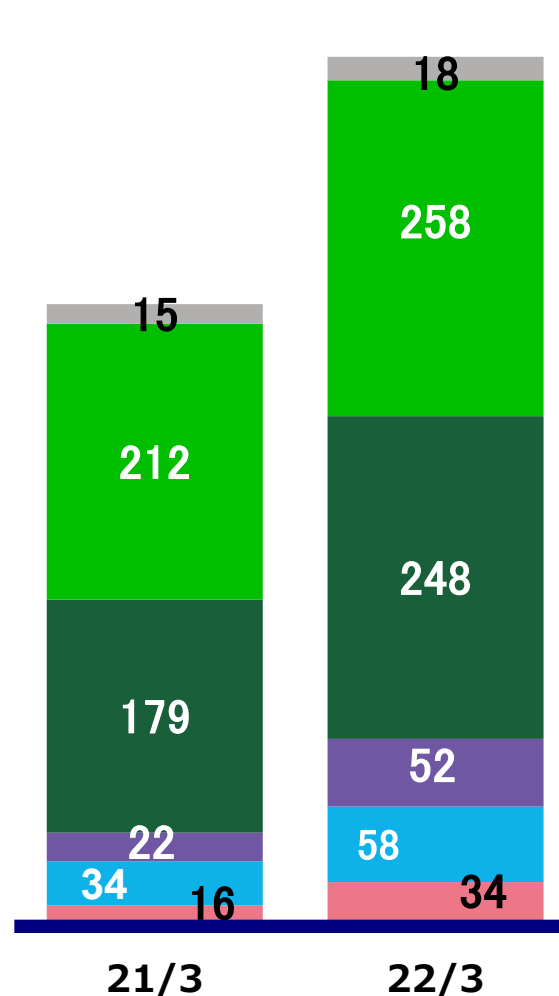


営業利益

合計
317

合計
507

(単位：億円)



セグメント

- その他
- エンジニアリング
- プラスチック
- マテリアル
- セイフティ
- スマート
- メディカル・ヘルスケア

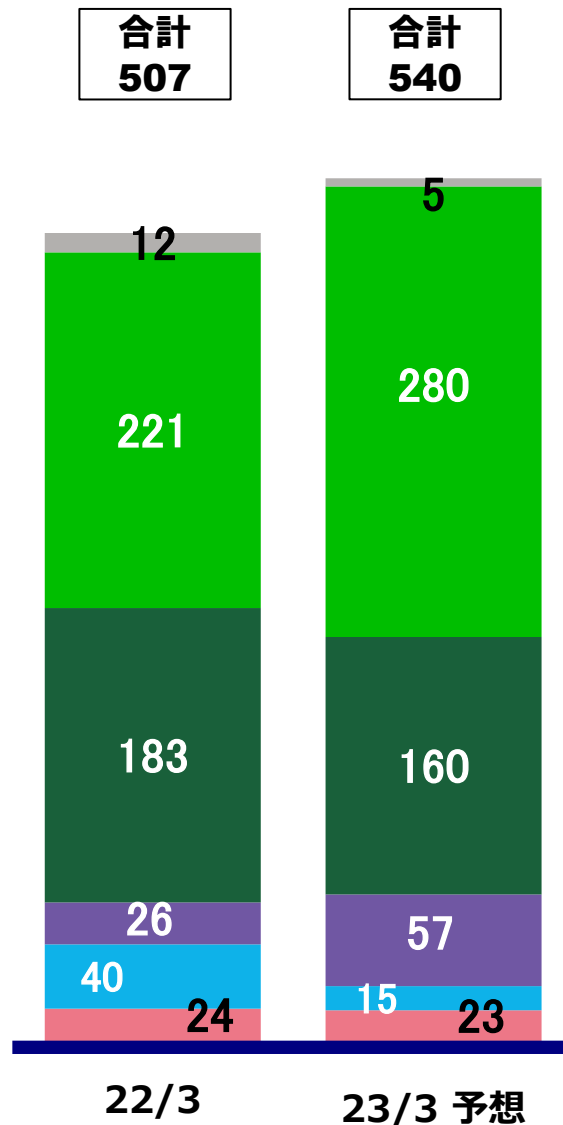
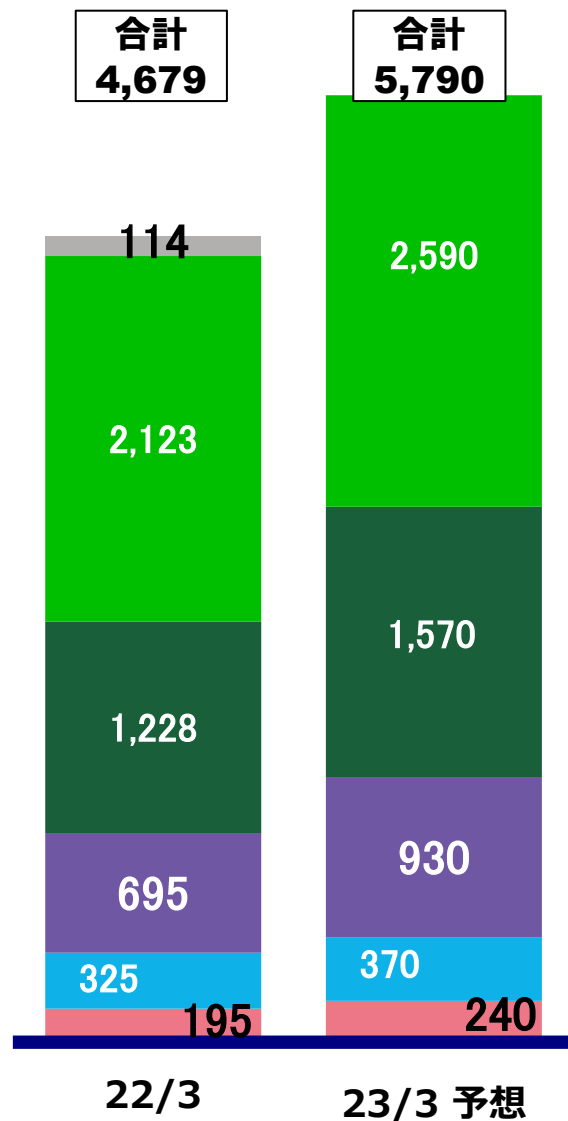
※営業利益のグラフは
全社共通費用消去分
を除く。

セグメント別の売上高・営業利益（23年3月期予想 前年比較）

売上高

営業利益

（単位：億円）



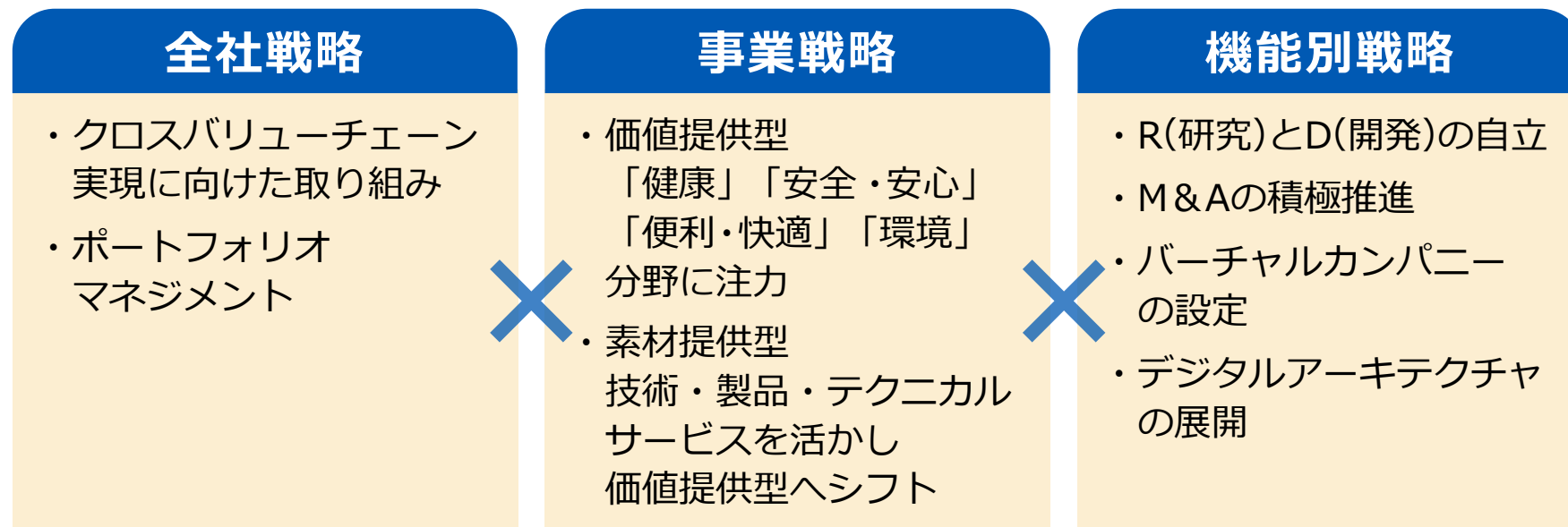
セグメント

- その他
- エンジニアリング
- プラスチック
- マテリアル
- セーフティ
- スマート
- メディカル・ヘルスケア

※2023年3月期より全社共通費用を全て各セグメントへ配賦する方法に変更しております。
2022年3月期営業利益の数値は配賦方法変更を適用した数値となります。

中期戦略の主要戦略と経営目標

会社、工場の枠組みを超えたサプライチェーン全体での共存共栄



Accelerate 2025 経営目標

ROIC 10%以上、EBITDA1,000億円以上、営業利益 最高益更新
重点指標 ROE \geq ROIC \geq ROA>WACC

(注) ROE : 自己資本利益率 ROIC : 投下資本利益率 ROA : 総資産利益率 WACC : 加重平均資本コスト

既存事業の成長計画

ダイセルグループの強みを活かした施策の実行と、ポリプラスチック完全子会社化によるシナジー効果、セイフティ事業の収益改善などにより、業績の回復、成長を図ります。

ダイセルの強み	主な施策
バイオから特徴ある有機合成技術	<ul style="list-style-type: none"> ・天然由来や生分解性などサステナブル素材の拡充 ・最先端のニーズに即した半導体関連事業の強化 ・脂環式エポキシの素材・機能提案力の強化
スーパーエンブラから汎用樹脂まで幅広い製品群	<ul style="list-style-type: none"> ・エンブラの供給力増強とプロダクトポートフォリオ拡充
セルロイドから展開したセルロース技術、火工技術	<ul style="list-style-type: none"> ・天然素材を活かした酢酸セルロースの用途展開 ・インフレータ事業で培った技術を活かした用途開拓
AI、IoTによるノウハウを活用する仕組み (ダイセル式生産革新)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全、品質、生産量、コストをリアルタイムで予測し、最適な運転条件を導出 ・プロセス、設備の変調の予兆を検知し、変調を未然防止

ポリプラスチック完全子会社化によるシナジー効果

グローバル展開の加速、コストダウン、グループ資源の相互活用などにより2026年3月期までに約200億円のシナジー効果（EBITDA）を実現させます。

セイフティ事業の収益改善

生産地統廃合、品種統合、ガス発生剤の製法転換、インド生産拠点設置などにより、コスト競争力強化と市場シェア拡大を図ります。

業績・経営指標のターゲット

単位: 億円

	22/3 実績	23/3 *1	⇒	26/3 *2
売上高	4,679	5,790		5,000
営業利益	507	540		700
営業利益率	10.8%	9.3%		14.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	313	410		480
EBITDA	789	860		1,160
ROE	12.3%	14.2%		18.0%
ROIC	6.2%	5.4%		10.0%
ROA	4.7%	5.6%		8.0%
株主還元性向	1株当たり配当額32円を下限 株主還元性向40%以上			

期	主な計画
23/3	1,3BG(化粧品原料) 新プラント稼働
	セイフティ事業生産地統廃合完了
24/3	CO(酢酸原料) 新プラント稼働
	電子材料向け溶剤増産
	インフレータ インド生産拠点を稼働
25/3	半導体レジスト材料増産
	POM 中国新プラント(1期)稼働
	LCP 台湾新プラント稼働
	COC ドイツ新プラント稼働
26/3	POM 中国新プラント(2期)稼働

*1: 23年3月期は、22年11月2日発表の業績予想

*2: 26年3月期は、21年2月18日発表の中期戦略業績ターゲット

中期戦略で掲げた施策は予定通り実施していますが、発表時から投資時期の変更や為替など前提条件の変化が生じています。中期戦略最終年度(26年3月期)の目標は、発表時点の前提での数値であり、それ以上の業績を達成できるよう取り組んでおります。

5. 株主還元

株主還元方針

中期戦略「Accelerate 2025」における株主還元方針

中期戦略発表時の1株あたり配当額32円を下限とし、
機動的な自己株式取得も視野に、

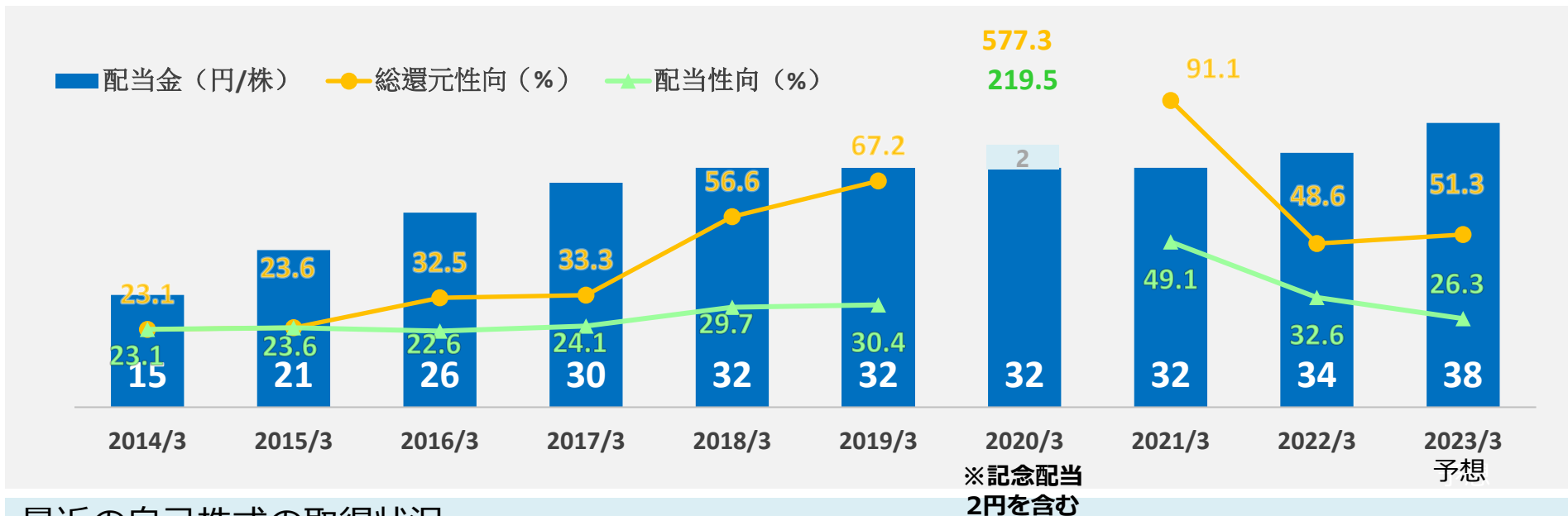
各年度の「株主還元性向40%以上」

をターゲットとします。

2023年3月期の配当予想は、前期比4円増配の年間38円/株としています

株主還元の様況

1株当り配当金 (円)



最近の自己株式の取得状況

- 2020年3月期**
- ・約178億円の自己株式取得を実施
 - ・1,600万株の自己株式消却を実施 (消却前発行済株式総数に対する割合 4.82%)
- 2021年3月期**
- ・約83億円の自己株式取得を実施
 - ・1,300万株の自己株式消却を実施 (消却前発行済株式総数に対する割合 4.11%)
- 2022年3月期**
- ・約50億円の自己株式取得を実施
- 2023年3月期**
- ・約100億円の自己株式取得を決定

6. 参考資料

連結貸借対照表

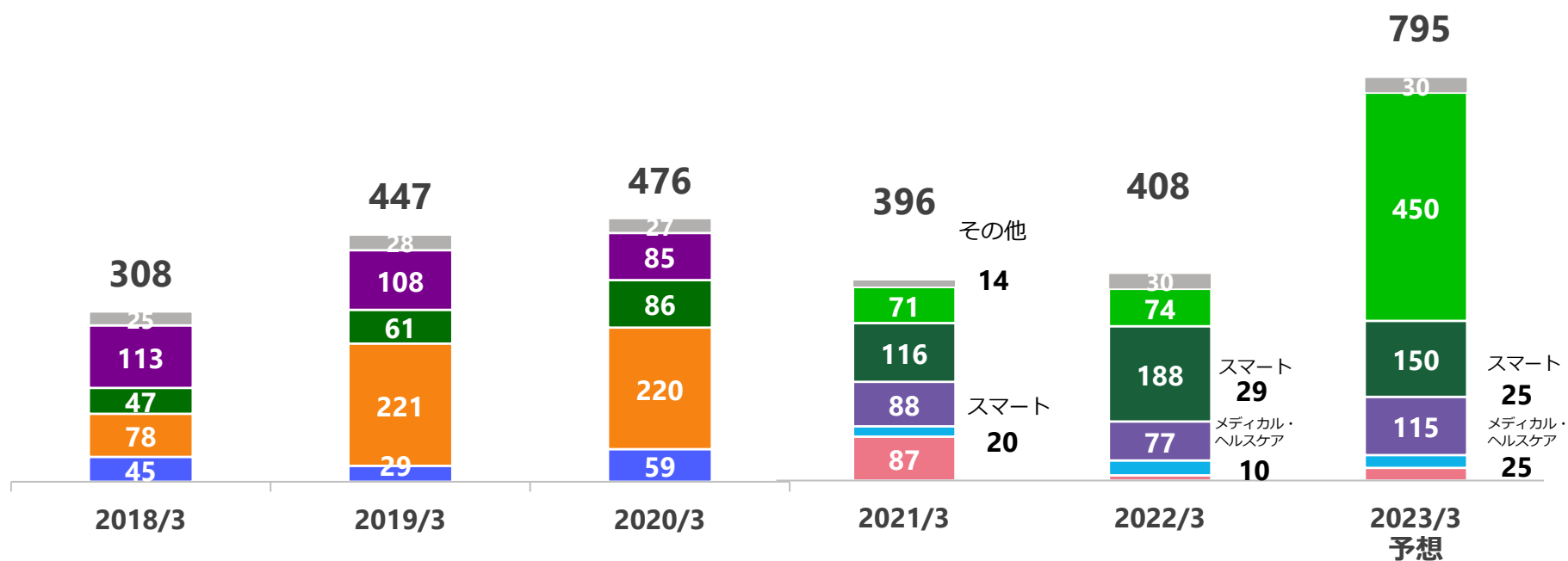
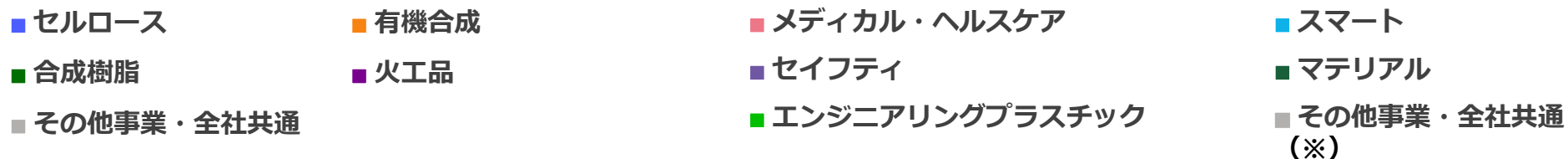
(単位：億円)

		2021年 3月末	2022年 3月末	増減
流動資産		3,125	3,602	+477
	現預金及び有価証券	915	905	△ 10
	受取手形及び売掛金	932	1,026	+94
	棚卸資産	1,087	1,420	+333
	その他	192	252	+60
固定資産		3,279	3,386	+107
	有形固定資産	2,197	2,298	+101
	無形固定資産	106	101	△ 5
	投資その他資産	975	987	+11
資産合計		6,404	6,988	+585
負債		3,954	4,193	+239
	有利子負債	2,709	2,836	+126
	その他	1,244	1,357	+113
純資産		2,450	2,795	+345
負債純資産 合計		6,404	6,988	+585

設備投資額の推移

(単位：億円)

※2021年3月期より、セグメントを変更しております。



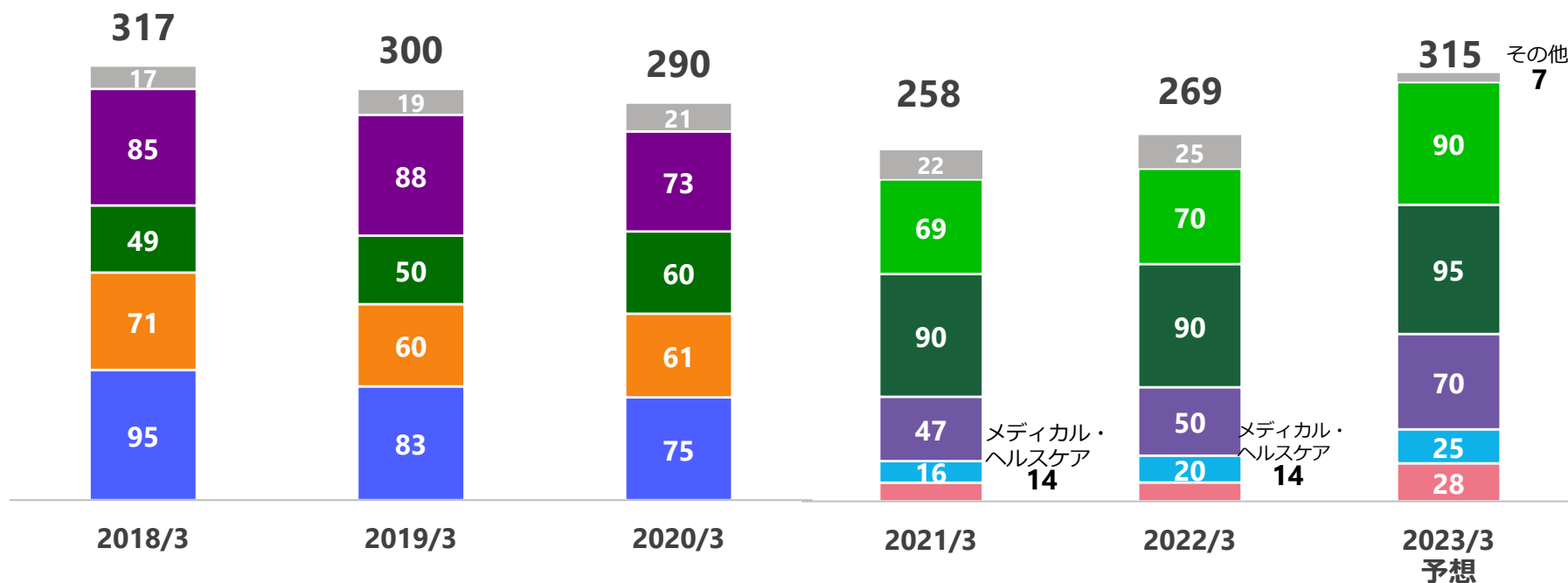
※ 2023年3月期より、その他事業のみ

減価償却費の推移

(単位：億円)

※2021年3月期より、セグメントを変更しております。

- セルロース
- 有機合成
- メディカル・ヘルスケア
- スマート
- 合成樹脂
- 火工品
- セイフティ
- マテリアル
- その他事業・全社共通
- エンジニアリングプラスチック
- その他事業・全社共通(※)

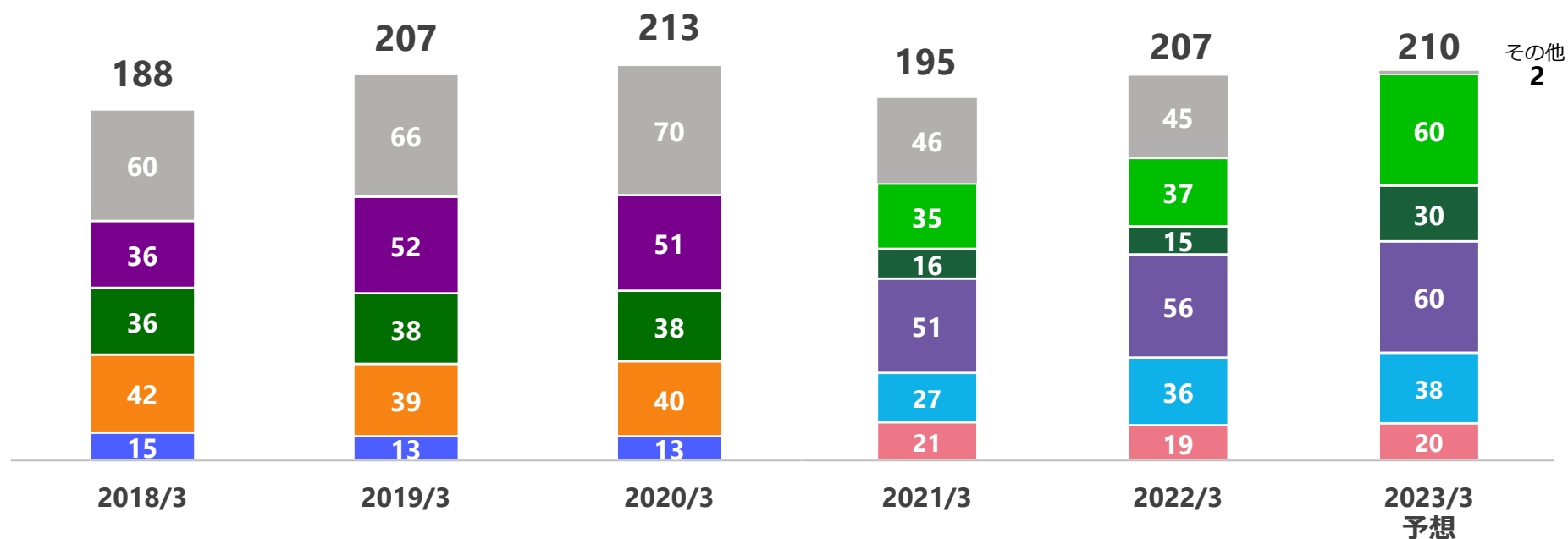
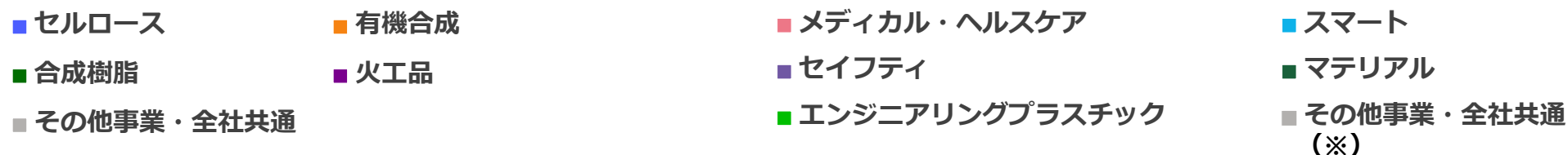


※ 2023年3月期より、その他事業のみ

研究開発費の推移

(単位：億円)

※2021年3月期より、セグメントを変更しております。



※ 2023年3月期より、その他事業のみ

予測に関する注意事項

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
 - ・ 本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。
 - ・ いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

